

フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	新潟県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	新潟市立黒埼中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数 38
学級数	6	6	7	1	20	
生徒数	218	231	243	3	695	

II 研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、共に支え合い、高め合う生徒の育成 —基礎・基本の定着を目指して—

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

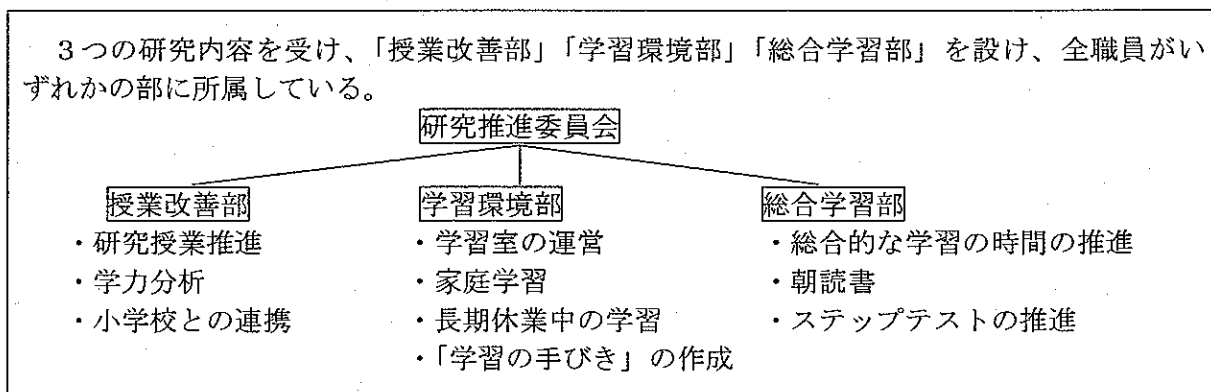
- ・1、2年生 数学
理解の度合いや理解の仕方に違いが見られ、それぞれに対応する必要があるため。
- ・2年生 英語
生徒の学力差が大きく、個に応じて適切な課題を設定する必要があるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	○テーマ 自ら学び、共に支え合い、高め合う生徒の育成 —基礎・基本の定着を目指して—
	○研究の見通し 生徒の学力の実態から、上位生徒群と下位生徒群に大別されることがわかった。全体の学力向上のためには、下位生徒に「自ら行っている」という目的意識をもたせつつ、自ら学ぶために必要な基礎・基本を身に付けさせるための方策をとる必要があると考えた。また、本校生徒は6つの小学校から入学してくるため、学区全体での共通した取組も必要である。そこで次の3つの点から研究を進めることとした。
	○研究の内容・方法
	(1) 個に応じた指導法、指導体制の改善
	・数学、英語において少人数指導、習熟度別指導を実施する。
	・「課題の工夫」を中心にした授業改善を実践する。
	(2) 基礎・基本の習得に必要な知識・技能を徹底するための学習環境の確立
	・ステップテストによる基礎学力の診断と個別学習を促進する。
	・読解力、表現力の伸長を目指して「朝読書」を推進する。
	(3) 学力向上のための小・中連携の促進
	・小・中が協力して学区全体の学力検査の結果をまとめ、共通理解と課題解決への方策を検討し実施する。
	・アンケート等を通して、児童生徒の学習を取り巻く諸条件について把握し、学習指導の充実に努める。
	・「学習の手びき」を改訂し、小・中で活用する。

平成16年度	<p>○テーマ 自ら学び、共に支え合い、高め合う生徒の育成 ー基礎・基本の定着を目指してー</p> <p>○研究の見通し 前年度の研究テーマを継続し、全教科において「課題の工夫」をテーマに授業改善に取り組む。</p> <p>○研究の内容・方法 ・少人数指導、習熟度別指導を位置付けた指導計画を作成する。 ・「課題の工夫」をテーマに全教科において研修を行い、授業の質を高める。 ・学習相談、補充学習の充実を図り、望ましい学習習慣を身に付けさせる。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 数学科における習熟度別による少人数指導への取組

① 習熟度別指導のねらい

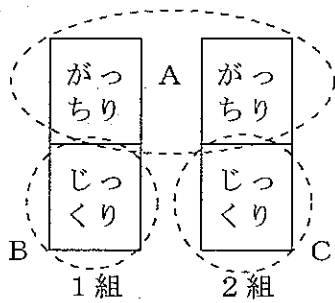
- ・理解の遅い生徒、早い生徒それぞれの進度に近い形で授業を進め、より個に応じた指導を行う。
- ・ねらいをより明確に設定し、課題の工夫をする。

② クラス編成

- 学級をもとにした、「じっくりコース（基礎）」と、「がっちりコース（発展）」の2コースを設定する。その理由は、
- ・学級をもとに構成されるので、人間関係の不安も解消される。
 - ・違ったレベルの生徒が混在しており、細かく習熟度別に分けるよりも多様な見方・考え方に触れられる。また、助け合い学習も行え、ともに支え合い、高め合う学習を目指すことができる。
 - ・慣れ親しんだメンバーであり、気兼ねなく発言できるので積極的な参加が期待される。

③ クラス編成方法

- アンケートにより、じっくりコース(基礎をじっくり)、がっちりコース(定着・発展)の2つのコースの中から1コースを生徒に選ばせる。
- ・左のように、2クラスのがっちりの希望者をまとめて、1クラスをつくり、それぞ



れのじっくりコースで2クラスをつくる。

- ・本人の希望によるコース選択を原則とし、定期テストやステップテストの結果を考慮し、本人に適したコースを選択できるよう助言を行った。
- ・さらに、定期テストやステップテスト、単元確認問題等でコースの変更も可能にする。(ただし、仲間関係や楽そうだからという理由での変更はしない。)

④習熟度別指導の内容

じっくり
コース

(補助課題)

基本課題

類似課題

- ・既習事項をもとにじっくりと指導+類似問題による基本の定着。

がっちり
コース

基本課題

類似課題 発展・応用

- ・基本課題をしっかりとおさえ、類似問題による定着と発展問題への挑戦。
- ・発展とは問題の難易度を上げることのみならず、多様な見方・考え方の広がりや理解の深まりを考えて課題を設定する。

(2) 補充・発展学習への取組

①基礎学力の徹底を目指したステップテストの実施

国語(漢字)、数学(計算)、英語(単語)についてそれぞれ年2回ずつテストを実施した。テストは100点満点とし、60点以上を合格とする。合格できなかった場合は再テストを行い、それでも合格できない場合は補充学習を行っている。ステップテストの実施により、「これくらいはできなくては」という意識が高まってきており、熱心に課題に取り組む姿が見られるようになった。

②「放課後質問教室」の開設

毎週木曜日の放課後に「質問教室」を開設している。いつでも安心して分からないところを聞くことができる雰囲気を作り、自ら進んで学ぶ姿勢を身に付けさせることを目的としている。学習環境部を中心に、生徒の質問に対応しているが、その他に学生チューター制度も活用している。

③長期休業中の補充学習の実施

各学年とも合計5日間程度の補充学習を実施し、生徒のレベルアップを図った。1学年部では、数学と英語をそれぞれ2日間ずつ実施した。参加生徒数は1日平均55人。簡単な問題をたくさん解くことによって定着を図った。参加した生徒及びその保護者の多くから好評を得た。

(3) 小・中連携における取組

小・中の学習内容のつながりを確認し、小学生および中学生の実態を知ることによって、小・中教員間における理解が深まり、また中学校の教員が小学校を訪問することで、中学校に対する不安感を和らげることができると考え、交換授業を行っている。

2. 今後の課題

(1) 習熟度別による少人数指導の充実

今年度は数学科を中心に研究を進めたが、来年度は英語科においても習熟度別指導を

より多く取り入れていく予定である。どちらの教科においても編成方法の工夫については本校に合った方法が見えてきた。今後は実施単元の設定、年間指導計画と評価計画の見直しに重点をおいて取り組んでいく。

(2) 全校体制で取り組む授業改善

生徒の学力向上のためには、全教科において授業の質を高める必要がある。来年度は引き続き「課題の工夫」をテーマに、全校体制での研修を深めていかなければならない。

(3) 学習相談、補充学習の充実

ステップテストや補充学習を通じて、基礎的な力を身に付けようという生徒の意識は高まってきているが、1・2年生においては「ほとんどしない」生徒が増えており、家庭学習の習慣が定着していないことがわかる。生徒が自主的に学習するために必要な基礎的な知識・技能を身に付けさせるために、さらに補充学習を充実させていくとともに、家庭学習を促すための学習相談にも時間をかける必要がある。

IV 学力把握のための学校としての取組

- ・ 4月にNRTを実施。
- ・ NRTの結果を基に、各教科ごとに全国、新潟市内と比較しながら分析し、8月に全職員で検討会をもった。
- ・ 学区の小学校のNRTの結果とも比較分析し、担当職員で検討し、小・中それぞれにおける課題と共通する課題をまとめた。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1) 黒埼地区教育協議会

- ・ 日時 平成15年6月26日(木)
- ・ 会場 黒埼中学校
- ・ 内容 学力向上フロンティア事業についての取組の説明

(2) 第1回地域協議会

- ・ 日時 平成15年7月7日(月)
- ・ 会場 新潟市農村環境改善センター
- ・ 内容 学力向上フロンティアスクールにおける研究概要についての説明

(3) 中間発表会

- ・ 日時 平成15年11月28日(金)
- ・ 会場 大野小学校、黒埼中学校
- ・ 内容 小・中でそれぞれ算数科、数学科の公開授業を実施した。その後「学力向上について」というテーマでシンポジウムを開催した。

(4) 第2回地域協議会

- ・ 日時 平成16年2月16日(月)
- ・ 会場 新潟市農村環境改善センター
- ・ 内容 平成15年度の取組の成果と課題について

(5) 研究実践集録の作成

- ・ これまでの研究実践をまとめ、西新潟地区・味方村の中学校に配布する予定である。

(6) 啓発パンフレットの作成

- ・ 「黒埼教育協議会」として学力向上に関わるパンフレットを作成し、小・中学校保護者全員及び全地区民に配布する予定である。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T. Tによる指導 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無